信毎俳壇

神野 紗希 選

海に咲く花ありぬべし涅槃西風
（小諸市）加藤 陽介

犬ふぐりとネモフィラきっと姉妹
（佐久市）佐藤 勝子

信仰は火種花種そっと蒔く
（佐久市）西田 和彦

たんぽぽの絮よゆめゆめ戦うな
（岡谷市）里山 子

手庇の追ふ弥生野の青い鳥
（坂城町）柄沢 満則

のつたりと西温なりけり千曲川
（長野市）小林 明男

剃りあとのローション清しバレンタインデー
（大町市）原田 勝

下萌や憶えているかプロポーズ
（長野市）宮沢 信博

雪折れの笏のあとの山の黙
（佐久市）神津 武士

ガザの子の幸多かれと春の雲
（松川村）中野 重行

佳作

ダニーボーイ山連なりて田芹摘む
（高木村）樋谷久美子

春めきて青空を刷る諏訪湖かな
（下諏訪町）立石 理

選評

一句目、西方浄土を思わせる涅槃西風が、海に咲く幻の花のイメージとあいまって、極楽のゆたかな気配を運ぶ。二句目、どちらも小さな空色の花を咲かせ、たしかによく似ている。犬ふぐりが姉でネモフィラが妹かな。ほがらかな春。三句目、同じ種でも戦争を生む「火種」もあれば未来を育む「花種」も。四句目の「ゆめゆめ」は「決して」の意。戦わず、種を蒔き、絮を吹いて、春を生きたい。

坊城 俊樹 選

能登の子のもらふ卒業証書かな
（坂城町）柄沢 満則

ふらここを小さくゆらし老いにけり
（安曇野市）丸山 進也

風邪の子の額のまるみ掌に
（長野市）小池 秀雄

無為徒食昭和一桁春炬燵
（岡谷市）吉池富貴勇

涅槃図の嘆く獣の涙かな
（長野市）北沢 時江

佐久囲む山々みんな笑ひだす
（佐久市）町田ゆかり

二度三度消えて又降る春の雪
（木島平村）日台 敏矢

余寒身にありつつ眼鏡くもりつつ
（埼玉県美里町）飯野佳代子

春寒の厨に残る燐寸の香
（長野市）荻原 宏祐

薄氷になりそこねたる水たまり
（長野市）福沢 ナナ

佳作

おぼろ夜の人に先立つ下駄の音
（安曇野市）平 至行

苗札や妻は領域また拡げ
（箕輪町）向山 政俊

選評

一句目、能登の大地震は正月ということもあり、驚きと共に被災地のショックがテレビを通じてひしひしと伝わって来た。しかし被災した子も無事に卒業を迎えた。その喜びが目に見えるようだ。二句目、黒沢監督や小津監督の映画にこんなシーンがあったような気がする。「小さく」の余韻は人生の余韻だろう。三句目、この風邪の子の熱を手を当てて測る親の心配そうな顔つきすら見えてくる。

今井 聖 選

卒業式に化粧の妻と上京す
（千曲市）田中 善樹

申告を済まして風に吹かれけり
（松川村）岡 豊村

雛の息かかる灯のゆらぎけり
（松本市）新田 順子

啓蟄に縄跳び軽き米寿かな
（佐久市）大井 悦子

春雲やもろさわようこ乗せてゆく
（千曲市）たじまたける

暖かやライオン腹を見せてをり
（小諸市）清水 順子

豊饒の大地の授乳春の雨
（長野市）武田 芳子

トラクター姨捨の田を打つてをり
（長野市）せきたつお

だんだんに撫で肩となる春の山
（佐久市）神津 武士

春の雪直火強火でナンを焼く
（塩尻市）長 泰裕

佳作

春の雪ランプの夜を埋めにけり
（群馬県嬬恋村）岡本 政彦

甘露煮や春の小鮒の左向
（坂城町）柄沢 満則

選評

一句目、上京するのだから子息は大学卒業か。その喜びを言うのに妻の化粧に焦点を当てた狙いが成功している。極めて新鮮。二句目、確定申告という社会的な行為に季節を感じさせるところが手腕と言えよう。さらりと詠んで見事。三句目、雛祭りの本意をロマンの色濃く詠んだ。俳句が従来抱いてきた情緒である。四句目、明るく元気な米寿。こんな年の取り方は理想的に思える。